

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 平成29年12月度 番組審議会概要

平成29年12月14日（木）

14時00分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長)

石田 美枝子 木村 精治 上柳 正仁

齋藤 照安 中野 友章 瀬口勇一郎

— 議 題 —

番組名 「ロシアの主役は俺だ!! ～サッカー日本代表 新世代の挑戦状～」
放送日時 平成29年12月3日（日）深夜 24時30分～25時25分
テレビ静岡発 フジテレビ系列全国27局ネット
制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

近づくW杯ロシア大会で必勝を期する日本代表にとって、ベテラン選手と「新世代」の融合は必須の条件だ。今、「新世代」の多くが国際舞台に戦いの場を移し、厳しい環境で挑み続けている。ドイツで戦う浅野拓磨は、クラブでのポジション争いを繰り返しながら得点力を着々と磨く。オランダの小林祐希は、司令塔の役割を任せられ左足から自在にパスを繰り出す。ベルギーの久保裕也は、己の嗅覚を試すかのようにゴール前で果敢にチャンスを作り出す。一方、国内に残る選択をした井手口陽介や昌子源は、Jのチームでレギュラーポジションを獲得し着実に力をつけている。しかし、彼らに“代表の座が約束”されているのではない。自らの研鑽と葛藤、汚名への憤り、仲間や家族への思いやり…、英雄になる宿命を背負った彼ら「新世代」の本音と覚悟に迫る。

— 審議概要 —

- ◎全体的に日本代表を目指す若いサッカー選手たちの本音がわかる良い番組だった。
 - ◎海外組・国内組それぞれと代表経験者のコメントがあり、わかりやすい構成だった。
 - ◎番組の放送時間・約1時間があったという間に感じられた。
 - ◎ピッチに立つ選手の姿だけではわからない、内面に光を当て本音をとらえた番組。
 - ◎国内外を問わず、日本代表で戦うために自分を鍛える選手の意志が伝わってきた。
 - ◎取り上げた選手たちがW杯ロシア大会でどう選ばれるか、楽しみが膨らんだ。
 - ◎レギュラー争いで苦しむ中、家族との絆を大切にしている浅野選手の姿が印象的だった。
 - ◎「第二のビッグマウス」と呼ばれる小林選手が実際はそうではなく、単に目標を口にしているだけで、仲間の息遣いまで感じてプレーする姿に感動した。
 - ◎海外選手が所属するホームチームの歴史や地域の紹介がよかった。
 - ◎オランダで「人口3万人の都市で、会場2万7千席が満員」になることに驚いた。
 - ◎代表チーム内で起こる「タテ社会」という内情に、実業と重なる現実がわかった。
 - ◎海外組と国内組を対抗軸で見せる演出について、肯定・否定の両意見が出た。
 - ◎深夜放送では見づらく、もっと幅広い世代の人が観られる時間で放送した方がよい。
 - ◎終盤にあった代表経験者のコメントは、内容が浅く必要なかったのでは？
 - ◎現在開催されている、E1で活躍する国内組にも焦点を当てた方がよかった。
 - ◎海外の試合映像は、得点シーンが少ない上繰り返しが多いので興醒めだ。
 - ◎取り上げた選手たちの知名度が低く、興味を引きにくかったのでは。
- ◎第2部「放送一般についての意見・質問」は、石田委員が担当し、「市民活動とテレビ ～テレビ静岡に期待～」として、市民活動とテレビの関わりについて述べた。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りで参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は平成30年1月18日（木）の予定です。